

## 1 市村の概要

### 1 面積

面積等	(単位:km <sup>2</sup> ・人)				
	新居浜市	別子山村	計	県計	12市計
面積	161.3	73.00	234.3	5,675.67	1,722.54
人口密度	793	4	347	263	625
可住地面積	60.62	1.89	62.51	1,651.52	686.95
林野面積	100.81	71.24	172.05	4,015.13	1,035.82
可住地面積割合	37.58	2.59	26.68	29.10	39.88

現状別子山村の73km<sup>2</sup>増えることで、234.27km<sup>2</sup>となるが、そのほとんどが林野面積であり、合併前に比べると人口密度が、極端に下がることとなる。

## 2 沿革

### 歴史

	歴史
新居浜市	新居浜地方は、元禄4年(1691年)の別子銅山開坑以来住友系諸会社を中心に繁栄した。昭和12年、新居浜町、金子村、高津村が合併して市制を施行し、その後更に昭和28年神郷、垣生、多喜浜、大島の4村が、30年に泉川町、中萩町、船木村、大生院村が、34年に角野町の合併で、現在の人口13万人の県下第2位の都市となった。39年に新産業都市の指定を受け、四国屈指の工業都市として、また四国の中核都市としての機能の拡充整備を図っている。
別子山村	別子山村は、江戸時代より昭和48年まで採掘された別子銅山の繁栄により世界中にその名を馳せた経緯を持つ。閉山後は急激な過疎現象を起し、今では西日本一人口規模の小さい村となっている。周囲を高い山々で囲まれた遠隔地であるため、明治22年の市町村制の施行以来、合併の経験がないまま現在に至る。

## 地 勢

	地 勢
新居浜市	愛媛県の東部に位置し、北は瀬戸内海の中央燧灘に面している。南は四国山地と接し、総面積の3分の2が山地丘陵地である。市の中央を貫流する国領川は笹ヶ峰より発し、その水は伏流水となって多目的に利用されている。また、臨海部は四国屈指の工業地帯として発展している。気象条件は、背後山地や海岸丘陵等の地形の関係上、偏西風がおおく、大気の逆転層を生じやすい反面、天災の少ない恵まれた自然条件下にある。
別子山村	愛媛県の東部赤石山系の山ふところに位置し、新居浜市、土居町、伊予三島市、高知県大川村と境を接する。面積のほとんどが山林で、吉野川水系の源流としての銅山川が村を東西に流れ、その周辺の標高500～700mの所にあるわずかな平地を利用して集落が点在している。周囲の山々は高さが1,600m級で急峻である。山岳、溪谷、山野草等恵まれた自然環境を持っている。

## 3 人口・世帯

## 人 口

(単位：人)

	新居浜市	別子山村	計	県計	12市
平成2年	129,149	318	129,467	1,515,025	1,069,152
平成7年	127,917	319	128,236	1,506,700	1,075,433
平成12年	125,537	277	125,814	1,493,126	1,076,457
7年-2年	△ 1,232	1	△ 1,231	△ 8,325	6,281
12年-7年	△ 2,380	△ 42	△ 2,422	△ 13,574	1,024
12年-2年	△ 3,612	△ 41	△ 3,653	△ 21,899	7,305
増減率	△ 2.80	△ 12.89	△ 2.82	△ 1.45	0.68

## 世帯数

(単位：世帯)

	新居浜市	別子山村	計	県計	12市
平成2年	44,280	159	44,439	512,771	370,226
平成7年	46,559	163	46,722	541,701	395,914
平成12年	48,126	146	48,272	565,970	417,057
7年-2年	2,279	4	2,283	28,930	25,688
12年-7年	1,567	△ 17	1,550	24,269	21,143
12年-2年	3,846	△ 13	3,833	53,199	46,831
増減率	0.80	△ 0	0.80	10.97	10.65

昼間人口の状況

(単位：人)

区 分	新居浜市	別子山村	計
人口(夜間人口) (A)	127,917	319	128,236
従業も通学もしていない	48,884	148	49,032
自宅で従業	7,520	7	7,527
自宅以外の自市村で従業・通学	64,639	118	64,757
県内他市町村で従業・通学 (B)	6,571	46	6,617
他県で従業通学 (C)	265	0	265
他市町村に常住して自市村に従業・通学 (D)	7,247	15	7,262
昼間人口 (F) = (A) - (B) - (C) + (D)	128,328	288	128,616
昼間人口と夜間人口の差 (流入超過人口 (F) - (A))	411	△ 31	380
従業者・通学者 (G)	78,995	171	79,166
他市町村で従業・通学 ( (B) + (C) ) / (G) * 100	8.65	26.90	8.69
他市町村に常住して自市村に従業・通学 (D) / (G) * 100	9.17	8.77	9.17
昼間人口指数	100.3	90.3	100.3

別子山村

(単位：人)

年別	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	人口増減	備考
平成7年	1	5	△ 4	23	17	6	2	
平成8年	4	4	0	18	25	△ 7	△ 7	
平成9年	3	3	0	15	21	△ 6	△ 6	
平成10年	2	3	△ 1	17	26	△ 9	△ 10	
平成11年	2	3	△ 1	17	17	0	△ 1	
平成12年		1	△ 1	14	15	△ 1	△ 2	

愛媛県

(単位：人)

年別	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	人口増減	備考
平成7年	13,906	13,511	395	61,849	63,239	△ 1,390	△ 995	
平成8年	13,793	13,261	532	60,603	62,541	△ 1,938	△ 1,406	
平成9年	13,754	13,436	318	60,775	62,891	△ 2,116	△ 1,798	
平成10年	13,752	13,772	△ 20	58,133	61,206	△ 3,073	△ 3,093	
平成11年	13,098	14,317	△ 1,219	57,326	60,733	△ 3,407	△ 4,626	
平成12年	13,267	13,785	△ 518	56,700	59,735	△ 3,035	△ 3,553	

## 1市1村

(単位：人)

年別	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	人口増減	備考
平成7年	1,201	1,149	52	3,957	4,738	△ 781	△ 729	
平成8年	1,231	1,086	145	4,022	4,542	△ 520	△ 375	
平成9年	1,256	1,116	140	3,879	4,332	△ 453	△ 313	
平成10年	1,233	1,191	42	3,883	4,416	△ 533	△ 491	
平成11年	1,193	1,196	△ 3	3,745	4,261	△ 516	△ 519	
平成12年	1,230	1,217	13	3,766	4,327	△ 561	△ 548	

**現状**

平成2年から、平成12年までの10年間で、新居浜市が2.8%減に対し、別子山村は、7.6%減と、いずれも愛媛県全体の人口減少率(1.45%)を上回っており、市、村外への進学、就職などによる社会減が続いている上に、特に別子山村については、高齢化による自然減が生じているものと思われる。

世帯数は、新居浜市においては、10年前に比べて、8.68%の増加となっており、世帯規模の減少傾向が顕著となっており、高齢者世帯で、かつ単独世帯、夫婦のみの世帯が増加していくものと思われる。別子山村については、世帯数の減少はないが、やはり世帯規模の減少が、顕著である。

昼間人口については、別子山村は、他市町村への従業・通学の割合が非常に高いが、その勤務先としては、新居浜市が大きな割合を占めている。

**課題**

少子高齢化に伴う人口減少への対応

増加する高齢者世帯と核家族化への対応

別子山村の希望は現状での定住だが、将来更に高齢化が進み、人口減少が進めば、集落機能が失われることが予想されるため、希望者を対象に重点的な集約化によるモデル地区等の検討が必要となる。